

2016年度
秋の収穫祭の行程

10月22日(土) 愛知県 岡崎市
「国際展による地域の再創造。あいちトリエンナーレの試みから」

11月19日(土) 熊本県 熊本市
「熊本城のいま—熊本地震からの復興にむけて—」

11月20日(日) 島根県 松江市
「小泉八雲、民話をめぐる旅」

参加申込方法

- 各会場とも、開催日の10日前【必着】までにお申し込みください。
- どの会場に参加していただいても、また、何回参加していただいても結構です。希望の会場毎にお申し込みください。本開催案内と同封の「2016年度秋の収穫祭参加申込について」をご参照のうえ、参加申込書に必要事項を記入し所定の期日までにお申し込みください。
- 各会場とも先着順で受け付けます。定員(会場の収容人数)を超えた場合は、ご参加いただけないことがありますので、ご了承ください。ご参加いただけない場合のみ、学生課よりご連絡します。
※「参加可」の場合はご連絡しません。当日直接会場へお越しください。
- 参加申込締切後の取消、追加申込(但し、定員に余裕のある場合)は可能ですが、必ず事前に通信教育部学生課へご連絡ください。
- 公開講座の参加費は無料ですが、入館料、入園料、拝観料等は個人負担となります。詳しくは各会場の開催案内をご覧ください。
- ご参加いただけるのは、お申し込みいただいたご本人(在学生、卒業生・修了生)に限ります。

京都造形芸術大学 通信教育部芸術学部・大学院(通信教育)

[住所] 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

[電話] 075-791-9141 ※10:00~16:00(日・祝休)

発行:2016年9月24日

Harvest Festival In Autumn



秋の収穫祭
二〇一六

あきのしゅうかくさいって何?

はじめてこの名前を耳にする方もいるかもしれません。
実はこのお祭り、「通信教育課程で学ぶ学生や卒業生の皆さんは、全国津々浦々にいるんだ」という、
"今となっては当たり前"のことに気づいた2000年度にはじまり、
今年で17回目となる通信教育課程の年中行事のひとつです。
お馴染みの教員が全国各地を行脚し、地域に根ざした公開講座を開催します。



10月22日(土)

愛知県 岡崎市

会場 Place

岡崎市竜美丘会館(たつみがおかいかん)
岡崎シビコ

【集合場所】

岡崎市竜美丘会館5階 501号室(10:45集合)
〒444-0863 愛知県岡崎市東明大寺5-1
<http://tatumikaikan.com/>

【アクセス】

JR名古屋駅→徒歩(数分)→名鉄名古屋駅→
特急電車(30数分、@660円)→名鉄東岡崎駅
名鉄東岡崎駅→徒歩(約20分)
または
名鉄東岡崎駅→名鉄バス(9番乗場より25系統「JR岡崎
駅前行(光ヶ丘経由)」、約5分、@180)→竜美丘会館前
下車、すぐ

●名鉄バス時刻

東岡崎→竜美丘会館前方面 10:17、10:47、11:17、11:47
竜美丘会館前→東岡崎方面 12:03、12:33

【当日緊急連絡先】090-3059-7011 【定員】50名



国際展による 地域の再創造。

あいちトリエンナーレの試みから

公開講座 Lecture

芸術大学である本学で学ぶ、あるいは卒業・修了された皆さんであっても、お住まいが全国に散らばっていることもあり、日頃から芸術作品に触れる機会がなかなかない、という方も多岐にわたります。ましてや、国際的な現代美術を鑑賞するとなると、都市部がそのような展示をする美術館のあるエリアに限られそうです。

以前からあったことではありますが、特にこの近年、地域起こしや観光ツーリズム、コミュニティーデザインなどの観点から、地方での美術展やアートフェスティバルの開催が盛んになってきました。借り手のなくなった商業施設や民家や廃校、自然の景観や歴史的建造物を活かした作品設置など、ギャラリーや美術館のような展示を前提とした施設や空間ではないところでの作品制作や展示が様々な場で行われています。

既成概念や因習にとらわれないアーティストの視線を通して地域の歴史や風土と特性を見直し、埋もれた資源を発掘しながら、新たな価値を付与して、人材の育成と地域の再活性化を図る試みは、規模の大小はあれど、地方に生きる皆さんにとっても参考になる事例が多々あると思います。

今回はあいちトリエンナーレ2016の試みを通して、岡崎という歴史ある地方都市内に点在する作品を、町歩きと共に鑑賞していくなかで、地域それぞれに根ざした芸術の発露という、本学の芸術立国の理念精神に



も通じる、地方の試みを検証して頂ければと思っております。

講師にはあいちトリエンナーレ2016チーフ・キュレーターの押戸雅彦氏をお迎えし、あいちトリエンナーレの概要をお話し頂くとともに、地方における国際芸術展の意義と課題などについてお話し頂きます。ぜひご参加ください。(勝又公仁彦)

担当教員



勝又 公仁彦
写真コース



今村 信隆
博物館学芸員課程

あいちトリエンナーレ <http://aichitriennale.jp/>
2010年にスタートした国際芸術祭。第3回目となる今回は、現代美術、舞台芸術、普及・教育の3つのジャンルに分かれ、名古屋、岡崎、豊橋の3都市で100組以上のアーティストの作品が展示・上映・上演されます。



押戸雅彦(はいと まさひこ)

あいちトリエンナーレ2016(AT2016)チーフ・キュレーター
愛知県国際芸術祭推進室主任主査

1964年名古屋生まれ。1991年名古屋大学文学研究科博士課程後期美学美術史専攻中退。専門はイタリアルネサンス美術。1992年10月から2008年3月まで愛知県美術館の学芸員として勤務。美術館で開催された現代美術展に関わる。「イタリア美術:1945-1995」(1997)、「ファウス・メロッチ」(1999)、「戸谷成雄一森の襲撃」(2001)、「アジアの潜在力」(2005)、「愉しき家」(2006)、「サイクルトリサイクル」(2007)など、ルイジベッチ現代美術館(プラト市、イタリア)での日本現代美術展「先立未来」(2001)や、ソウル市立美術館でのアジアの都市単位の美術動向を扱う「city_net_asia」(2006)の名古屋セクションのキュレーションにも関わる。愛知県があいちトリエンナーレの事業を立ち上げた2008年から現在の芸術祭推進室に異動。あいちトリエンナーレ2010(AT2010)、あいちトリエンナーレ2013(AT2013)はキュレーター。

チケット情報

現代美術(国際展)のチケットが必要です。チケットは各自でご購入ください。

- 普通チケット[一般(1800円)、大学生(1300円)]
※3会場(名古屋地区、豊橋地区、岡崎地区)すべてに入場できます。会場ごとに、日を改めて入場できます。入場当日のみ、同会場での再入場が可能となるチケットです。
- フリーパス[一般(3600円)、大学生(2500円)]※現代美術(国際展)の全ての会場を、何度でもご覧いただけるチケットです。
- 当日、岡崎会場のみ観覧できるチケット[300円]もあります。名鉄東岡崎駅ビル1階、岡崎シビコ1階、岡崎表屋、石原邸などで取り扱っています。

(チケット購入について)

愛知芸術文化センター内プレイガイド、愛知県内主要プレイガイド、名鉄きっぷ売り場(名鉄名古屋駅サービスセンター、栄町駅、東岡崎駅、豊橋駅)で取り扱っています。チケットぴあ、ローソンHMV、E+、セブンチケット、JTBレジャーチケット、楽天チケットなども引換券(観覧当日、会場にて実券と引換)を販売しています。詳しくは公式Webサイトをご覧ください。

名古屋、岡崎、豊橋の3会場の詳しい情報をお知りになりたい方は、公式ガイドブック「びあMOOK あいちトリエンナーレ2016 公式ガイドブック」(定価1204円+税) (ISBN978-4-8356-3101-1)をご覧ください。書店にて販売中。

スケジュール Schedule

- ▶ 10:45 ~
受付開始
- ▶ 11:00 ~ 11:05
全体説明・スタッフ紹介
- ▶ 11:05 ~ 12:00
特別講義「あいちトリエンナーレが目指すもの」(押戸雅彦)
- ▶ 12:00 ~ 16:00
岡崎地区会場(名鉄東岡崎駅ビル・籠田公園・石原邸・岡崎表屋・岡崎シビコ)を各自で自由に見学 随時昼食・休憩
- ▶ 16:00 ~ 16:30
岡崎シビコ(2階イベントスペース・おかげえもん広場)に集合、まとめ
- 岡崎シビコ6階には勝又公仁彦教員の作品が展示されています



11月19日(土)

熊本県 熊本市

会場 Place

熊本城、熊本市民会館

【集合場所】

歴史文化体験施設 湧々座入口前(12:45集合)
〒860-0008
熊本県熊本市中央区二の丸1-1-1 城彩苑内
※湧々座には入場しません。
<http://www.sakuranobaba-johsaien.jp/>

【アクセス】

JR熊本駅→電停「熊本駅前」→
市電A系統「健軍町行」→(約15分、@170円)→
「熊本城・市役所前」下車、徒歩5分。

【当日緊急連絡先】090-9097-1268

【定員】40名



熊本城のいま

— 熊本地震からの復興にむけて —

スケジュール Schedule

- ▶ 12:45 ~ 受付開始
- ▶ 13:00 ~ 13:05 全体説明・スタッフ紹介
- ▶ 13:05 ~ 14:00 熊本城見学
- ▶ 14:00 ~ 14:30 見学後、各自で熊本市民会館へ移動
- ▶ 14:30 ~ 17:00 特別講義、まとめ(熊本市民会館2階 第7会議室) ※適宜休憩
特別講義I「熊本地震の仕組と背景」(60分) (尾池和夫)
特別講義II「熊本城の被害と修復」(60分) (鶴嶋俊彦)

公開講座 Lecture

今年4月、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の強い地震が発生し、尊い人命が失われるとともに、多くの方々が被災されました。冒頭ではありますが、現在も避難生活を余儀なくされている皆様の生活が一日も早く安定し、安寧が訪れますように、心からお祈り申し上げます。

さて今回の「熊本地震」では、文化財においても多数の被害が出ました。熊本県教育委員会が発表した資料によれば、国の指定・登録文化財や県指定の文化財である685件のうち、21.9%に当たる150件で被害が出たとされています。阿蘇地方では、国の重要文化財に指定されている阿蘇神社の楼門【嘉永2(1849)年造営】が倒壊し、熊本市ではシンボルである熊本城の天守閣【昭和35(1960)年復元】はもとより、櫓や門など、重要文化財に指定されている13の江戸時代の建築物すべてに被害が出ました。そうした熊本城の被害の実情や600億円と数十年の期間を要するともいわれる修復事業の今後について、学生のみならず自身の目で確かめ、理解を深めることができるように、現地での研修と特別講義を組み合わせた企画を立案しました。

当日は地震直前の放映となったNHK「プラタモリ」の熊本の回にもご出演された鶴嶋俊彦さん(熊本城調査研究センター／文化財保護主幹)に現地研修と特別講義をお願いしています。熊本城に関する深いご見識とご経験を踏まえて、今回の被害状況や今後の熊本城の復興へ向けてどのような課題が山積しているのか、具体的にお話を頂きます。また地震学者である尾池和夫学長より、熊本地震の仕組みとその背景について講義をして頂き、地震をはじめ自然災害の多い我が国の実情を知るとともに、地域の文化遺産の護り方、将来



熊本城
熊本城公式facebookより

世代へと継承していく方法を考えるきっかけにできればと考えています。

東日本大震災以後、「文化財レスキュー事業」など自然災害によって被害を受けた文化遺産に対する関心が、以前にも増して高まっているように感じます。しかし今後は、被害に遭う前に地域の歴史を伝えるさまざまな文化遺産の価値を見出し、災害時にはどのように対処すべきかなど、事前に備えておくことも重要といえるでしょう。後世に伝えるべき文化遺産とは、国や県といった指定文化財ばかりでなく、実は身近なところにも満ち溢れています。そうした文化遺産への関心を高めていく意味でも、今回の催しは意義深いものになると確信しています。ぜひ多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。(石神 裕之)

担当教員



石神 裕之
歴史遺産コース



加藤 志織
芸術教養学科・共通科目



鶴嶋俊彦(つるしましひろこ)
熊本城調査研究センター 文化財保護主幹

1955年生まれ。駒澤大学大学院修士課程修了後、熊本県教育庁での文化財調査を経て人吉市教育委員会に入庁し人吉城跡の調査や史跡整備、青井阿蘇神社の国宝指定などの文化財の保存活用に関わる。この間に熊本大学大学院で学位(文学博士)取得。2014年に人言城歴史館館長で退職し、設立されたばかりの熊本城調査研究センターのスタッフとなる。

著書
『須志村史』須志村 1995年
『中世八代城下の構造』『中世都市研究10 港湾都市と対外貿易』(共著)新人物往来社 2004年
『相良氏と人吉城』『肥後学講座』III 熊日出版 2009年
『古代官道車路と鞠智城』『古代東アジアの道路と交通』勉誠出版 2011年
『古代中世の酒と球磨焼酎』『球磨焼酎』弦書房 2012年
『小西行長築城の城郭群』宇土市教育委員会編『再検証小西行長』第2集 宇土市 2016年



尾池和夫
(おいけ かずお)
京都造形芸術大学学長
専門分野: 地震学



11月20日(日)

島根県 松江市

小泉八雲、 民話をめぐる旅

会場 Place

京都造形芸術大学
島根ものづくりセンター、
小泉八雲記念館、小泉八雲旧居

【集合場所】

京都造形芸術大学島根ものづくりセンター(12:45集合)
●教室は当日掲示
〒690-0887 松江市殿町201

【アクセス】

JR松江駅北口側の松江市営バス乗場より、「県民会館前」を通るバスをご利用ください。集合場所となる「島根ものづくりセンター」へは、「県民会館前」下車、徒歩数分。
例えば、②乗場から「12 島根大学・川津方面行」等、いくつかの系統の市営バスが「県民会館前」を通過します(約10分)。

【当日緊急連絡先】090-3059-7011

【定員】30名



公開講座 Lecture

八岐大蛇伝説など、「古事記」や「日本書紀」に登場する神話エピソードの舞台として名高い出雲地方。昨今の聖地ブーム以来、古代よりこの地に建つ出雲大社への関心もますます高まっています。

出雲地方の都ともいべき松江市は、宍道湖のほとりにあり、古くから落ち着いた街並みを持つ城下町として知られています。この城下町の中心に、京都造形芸術大学の施設として2015年8月、「島根ものづくりセンター」がオープンしました。

今回は当センターを会場に、松江ゆかりの作家で民俗学者の小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)をめぐるレクチャーをおこないます。

子どもの頃、「耳なし芳一」「むじな」といった怪談を聞かされ、震え上がった記憶をもつ人は多いのではないのでしょうか。アイルランド人の父とギリシア人の母を持つ英語話者でありながら、日本に古くから伝わるこれらの話を聞きとって本にまとめ、今私たちが読めるようなかたちにしたのが小泉八雲です。

1890(明治23)年に来日した八雲は、英語教師の職を得て松江に落ち着き、当地で結婚した武家の娘・小泉セツとともに、松江城にほど近い武家屋敷町・塩見縄手にある日本家屋に暮らし始めました。現在、小泉八雲旧居として公開されているこの建物、そして隣接する記念館では、自筆の原稿や煙管など愛用した品々を見ることが出来ます。

案内してくださるのは、記念館の館長で八雲の曾孫にあたる民俗学者・小泉凡先生。見学に先立ち、ものづくりセンターにて特別講義「松江からみる、世界の『ラフカディオ・ハーン』」と題し、小泉八雲の人と作品についてお話しくださいます。松江という土地との関わりから見えてくる八雲像をおうかがいできるのが楽しみです。

小泉先生の講義に続き、私も専門であるフランス語圏文学から見たラフカディオ・ハーンについてお話します。ハーン=八雲は、来日前の数年間、カリブ海のフランス領マルティニク島に暮らし、現地の女性たちを情報源に島に伝わる民話を収集していました。当時のハーンの仕事ぶりを松江に暮らして以降の八雲の活



島根ものづくりセンター



小泉八雲記念館 第2展示室

小泉八雲記念館・小泉八雲旧居の入館料は個人負担です。参加者が20名以上となった場合は、団体料金となります。集合後に集金しますので、つり銭のないようにご用意ください。

※小泉八雲記念館 入館料:大人@400円
(参加者が20名以上の場合:大人@320円)
※小泉八雲旧居 入館料:大人@300円
(参加者が20名以上の場合:大人@240円)
※両施設共に障がい者手帳・療育手帳などの所持者及び介助者1名は無料。
小泉八雲記念館 <http://www.hearn-museum-matsue.jp/>
小泉八雲旧居(ヘルシージョ) <http://www.matsue-tourism.or.jp/kyukyuo/>

動と比べてみた時、生涯を通じ、名もなき民が伝える口承文芸に情熱を傾けた作家の姿が浮かび上がってくるのです。

当日はこうした八雲の足跡を皆でたどり、秋の一日、趣ある城下町をぜひ一緒に散策しましょう。

(大辻 都)

担当教員



大辻 都
芸術教養学科・共通科目



上原 英司
情報デザインコース



小泉 凡(こいずみ ぼん)

島根県立大学短期大学部教授、小泉八雲記念館館長、焼津小泉八雲記念館名誉館長
1961年東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。小泉八雲、妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践研究や子どもの五感力育成をめざすプロジェクト「子ども塾」で塾長として活動する。2001年から2002年は米国セントラル・フロリダ大学交換教授。
主著に「民俗学者・小泉八雲」(恒文社、1995年)、「文学アルバム小泉八雲」(共著、恒文社、2000年)、「怪談四代記—八雲のいたずら」(講談社、2014年<2016年に文庫化>)ほか。小泉八雲の直系のひ孫にあたる。日本ペンクラブ会員。



小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)
写真提供:小泉家

スケジュール Schedule

- ▶ 12:45 ~ 受付開始
- ▶ 13:00 ~ 13:05 全体説明・スタッフ紹介
- ▶ 13:05 ~ 14:05 特別講義「松江からみる、世界の『ラフカディオ・ハーン』」(小泉凡)
- ▶ 14:05 ~ 14:10 休憩
- ▶ 14:10 ~ 15:00 レクチャー「ハーンから八雲へ 口承文芸への情熱」(大辻都)、質疑応答
- ▶ 15:00 ~ 15:30 休憩、各自で小泉八雲記念館へ移動
- ▶ 15:30 ~ 16:30 小泉八雲記念館・小泉八雲旧居見学終了後、現地解散